

東地協ニュース 2015.6 第28号



8年ぶりの東京と2020年オリンピックについて

総務委員長 熊坂 明生

東京オリンピックの開催地が東京に決まり、決定の瞬間に日本に歓喜の声が広がってから2年近く時が過ぎた。

当初は久々の明るいニュースとしてその直接的あるいは間接的な効果により、人々に夢や希望を与え回復しつつある日本経済を更に上昇へ導き日本国民の生活向上に大きく寄与するのではと期待する声がしきりに上がっていた。

特に浮かれまくったのは経済界。東京都はオリンピック開催の経済効果を13年から20年の7年間で計2兆9609億円と試算したが、SMBC日興証券は約4.2兆円と上方修正。「ご祝儀相場」はこれに留まらず、森記念財団は国民の消費拡大と企業活動の活発化など「ドリーム効果」を加算し19兆4000億円とぶち上げた。揚句の果てにみずほ総研は28.9～36兆円にまで吊り上げた。

私も発表当時は名古屋勤務だったが、今年の4月に8年ぶりに東京に帰ってきて、次第に具体性を増し実際の投資活動も行われ始めたことを目の当たりにして、その効果に大きな期待を持った。しかしその準備の進展とは裏腹に、施設建設計画の遅れがささやかれ初め、メイン会場となる新国立競技場の建設費をめぐって、文部科学省と東京都がその負担金をめぐって真っ向から対立しはじめるような不協和音も鳴りはじめています。

では実際には東京五輪は日本に良いことばかりなのかというと、確かにインフラ整備のための集中投資は関連業界に大きな恩恵をあたえ、その裾野も広いと予想されるため1964年の東京五輪のオリンピック景気の再来を期待する声も多いが、その開催終了後には反動ともいえるべき景気後退を起こしたことを忘れてはいけないと思う。

そもそも世界各国のオリンピック後の景気の動きを調べてみたがスペインやギリシャは開催当時好景気だったにも関わらず、その財政出動により開催後に財政収支を悪化させ反動不況を起こした事実がある。

しかし各種の資料を調べて見ると経済規模が小さく、あるいは成長力がある国々ではオリンピック開催前後の変動は大きく、経済規模が大きい国々、あるいは経済が十分成熟している国々では変動が小さいという傾向があるという事も指摘されている。実際米国の96年アトランタオリンピック翌年の成長率は、統計によって差異はあるものの横這いもしくは上昇したと言われている。このことから日本という巨大で成熟した経済では2020年の東京オリンピックではその景気下振れの反動は少ないものと期待してもいいのかもしれないと思う。

いまでも、日本経済活性化、少子高齢への対応、財政健全化などしなくてはならないことは多い。しかし期限が定まった形で必達以外ありえないオリンピックのような巨大イベントは久しく無かったといえる。このようなイベントを前にして国民の意識は良い方向に影響を受けるかもしれない。

64年オリンピックが日本の経済成長と先進国入りを強く印象づけ国民の意識を明るくしたというような効果は確かにあったと思う。2020年のオリンピックは大きな国民的契機(あるいはチャンス)であるといえると思う。そのせっきくの契機においては“福島3.11”以来決して前向きとはいえなかった国民マインドを良い方向に変化させ、開催までにその大小はともかく確実に発生するであろう経済効果を台無しにしないような政策を為政者には期待したい。

● 会議報告等

○ 第31 回定時総会

第31 回定時総会は、5 月 22 日(金)、測量地質健保会館 7 階大会議室において開催された。当日は会員数 23 社に対し、全社が出席(うち委任状提出 4 社)し、議案が審議され異議なく承認された。

< 議 案 >

- (1) 平成 26 年度事業報告承認の件
- (2) 平成 26 年度決算報告及び監査報告承認の件
- (3) 平成 27 年度事業計画(案)承認の件
- (4) 平成 27 年度予算(案)承認の件
- (5) 役員改選の件

協会監事は 5 月総会にて 3 年の任期満了となり、改選の結果、以下の通り決定承認された。

また、理事の赤澤元重氏より辞任の申し出があり、後任として熊坂明生氏が理事に就任した。

監 事 (2 名)

任期: 3 年 (平成 27~29 年度)

監 事 金道 繁紀 ((株)地盤試験所)

監 事 倉持 知二 ((株)建設地盤)

理事の辞任に伴う改選

【辞任】理事(総務委員長) 赤澤 元重 (川崎地質(株))

【新任】理事(総務委員長) 熊坂 明生 (川崎地質(株))

※ 熊坂氏の任期は平成 28 年 5 月総会までとする。

※ 法令遵守の説明会

長谷川副会長より法令遵守の社会的使命について説明があった。

※ 総会后、関東学院大学 理工学部教授 若松加寿江氏(当協会理事)より、「東日本大震災における液状化被害と被害軽減への取り組み」について、ご講演いただいた。

< 総会風景 >



網代会長挨拶



< 講演会風景 >



講師: 関東学院大学
若松加寿江教授



< 懇親会風景 > 於: マール



○ 理 事 会

1. 平成 26 年度 第 7 回

日時：平成 27 年 2 月 20 日（金）

- (1) 前回議事録の確認
- (2) 平成 26 年度正味財産増減見込み
- (3) 平成 27 年度事業・正味財産増減編成方針案
- (4) 葛飾区・液状化対策助成金事業に係るアンケートの件
- (5) 平成 27 年防災展(東京都主催)について
- (6) ボーリングマシン安全衛生特別教育講習会(春期)について
- (7) 文書管理規定(案)について
- (8) 総務委員会関係
 - 1) 東地協ニュース 28 号 企画案
- (9) 広報委員会関係
 - 1) 委員会報告(平成 27 年 1 月 28 日)
- (10) 技術委員会関係
 - 1) 委員会報告(平成 26 年 12 月 17 日)
- (11) 関東協会・行事補助金規定の変更の件
- (12) 収支報告(平成 26 年 11 月～平成 27 年 1 月)
- (13) 冊子「下請法ガイドブックの会員配布
- (14) 緊急通行車両等事前届出の提出(車両・19 社分)
- (15) 地震発生に伴う情報提供(震災訓練・東京都港湾局)
- (16) 東京都・豊島区合同帰宅困難者対策訓練 報告(2 月 5 日)
- (17) 受注動向調査表
- (18) 全地連・第 3 回理事会 報告(2 月 10 日)

2. 平成 27 年度 第 1 回

日時：平成 27 年 4 月 14 日（火）

- (1) 前回議事録の確認
- (2) 平成 26 年度事業決算報告について
- (3) 第 31 回定時総会の進行について
- (4) 足場墜落防止の研修会(改正労働安全衛生規則)
- (5) 総務委員会関係
 - 1) 東地協ニュース 28 号について
- (6) 技術委員会関係
 - 1) ボーリングマシン安全衛生特別教育講習会 報告
(4 月 10 日, 11 日)
 - 2) 平成 27 年度第 1 回委員会報告(4 月 9 日)
- (7) 平成 27 年度東京都予算要望に対する回答について

- (8) 東京都「防災展 2015～阪神・淡路大震災 20 年 そして未来に備えよう～」報告

(2 月 27 日, 28 日 於：東京国際フォーラム)

- (9) 平成 27 年東京都・立川市合同総合防災訓練について
- (10) 高島なおき君議長就任祝賀会 報告(3 月 31 日)
- (11) 「地質の日記念 街中ジオ散歩 in Tokyo」(5 月 10 日・徒歩見学会)の後援について
- (12) 「東京都契約事務の委託等に関する規則」等の改正
- (13) 災害協定に基づく支援実施体制について
- (14) 全地連・事務局長会議 報告(3 月 6 日)
- (15) 葛飾区訪問 報告(4 月 2 日・液状化対策助成金事業の件)

3. 平成 27 年度 第 2 回

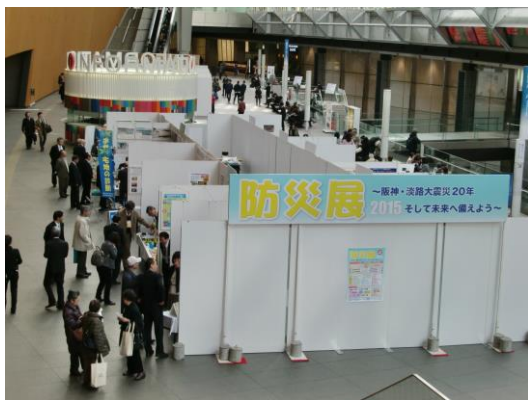
日時：平成 27 年 5 月 22 日（金） 総会前

- (1) 前回議事録の確認
- (2) 第 31 回定時総会について
- (3) 役員の改選について
- (4) 足場の組立て等の作業従事者特別教育講習会アンケートについて
- (5) 総務委員会関係
 - 1) 東地協ニュース 28 号企画案
- (6) 技術委員会関係
 - 1) 平成 27 年度第 2 回委員会報告(5 月 12 日)
 - 2) 地盤環境技術講習会(6 月 26 日)について
- (7) 収支報告(平成 27 年 4 月)
- (8) 大塚たかあき君を力強く応援する会(協会顧問)の件



☆ トピックス(協会行事紹介)

◎ 防災展 2015 ～阪神・淡路大震災 20年 そして未来へ
備えよう～への出展 (於：東京国際フォーラム)



2015/2/27(金)～2/28(土)に、有楽町の東京国際フォーラムにて、東京都主催の防災展が行われた。この防災展は、阪神・淡路大震災から20年という節目を迎える年にあたって、記憶の風化を防ぐとともに、都民や事業者に自助・共助への理解を深め、首都直下地震等への備えを推進する目的で実施された。

当協会は関東地質調査業協会と合同で、『防災に関する展示・体験を行い、防災意識の向上を図る』ことを目的としてブースを開設した。ブースには、一般来場者等を対象に、地震災害のパネルを展示したほか、個々の来場者ごとにパソコンでの地盤検索(土地条件図を利用した微地形、東京都の液状化予測図)を行った。さらに、液状化実験装置を用いて、液状化実験の実演を行った。特に液状化実験では、来場者から歓声があがるシーンもみられ、好感触を得ることができた。また地盤検索では、自分の家がどのような地盤に建っているのか?安全な場所なのか?について興味深く検索結果の説明に聞き入っている姿がみられた。残念ながらパネル展示に見入る姿はあまりなかったが、液状化実験と絡ませてパネルの説明をすると納得される感じであった。

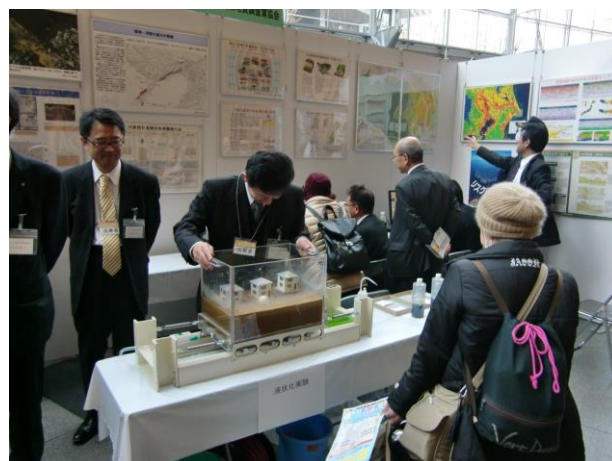
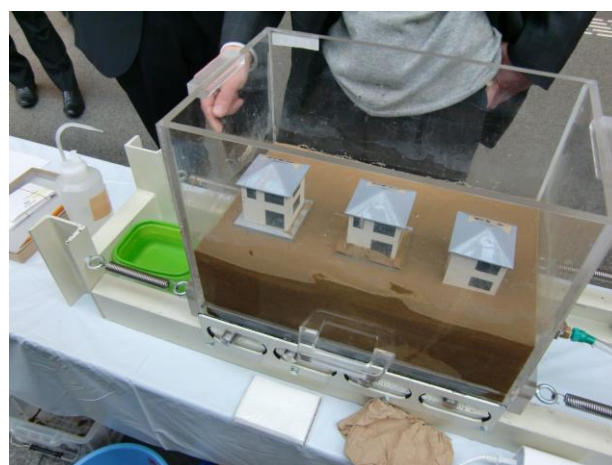
本防災展のテーマである「首都直下地震等への備えを推進する」ことに対して、来場者への理解の一助を果たすことができたのではないかと感じている。

(前 技術委員 平出 亜)

<地盤検索>



<液状化実験装置(協力:応用地質(株))>



◎ 平成 27 年度ボーリングマシン安全衛生特別教育講習会 (春期 ・ 4 月 10 日～11 日)

ボーリングマシンの運転作業に従事するためには、「労働安全衛生法」「労働安全衛生規則」で特別教育を修了する必要があります。当協会では地質調査技術向上へ向けての事業の1つとして、毎年春・秋の2回講習会を開催しています。また今回は関東地質調査業協会、全国さく井協会、日本アンカー協会、全国特定法面保護協会、日本グラウト協会からの後援を得ることができました。

年々安全意識が向上し、受講者は会員12名、後援会員26名、非会員11名の計52名と過去最大となりました。昨年から受講者の増加に対応し、学科講習会場を池袋の測量地質健保会館大会議室に変更しましたが、それでもほぼ満席の状態でした。受講者の方も非常に熱心で、9:00開講であるにもかかわらず、まだ会館職員も見えていない8:00頃から三々五々集まり、開始10分前には申込者全員がそろいました。

そこで時間前ではありましたが、早々に開講することにした。

まず初めに当協会の綱代会長から挨拶をいただき、引き続き学科7時間の講義に移りました。講師は当協会理事の片山氏より。ボーリングマシンに関する基礎知識・構造、運転・点検整備、関連法令、災害事例が講義されました。特に本年7月から労働安全衛生規則の一部が改正され、足場の組立て・解体の業務が特別教育の対象業務となり、従前高さ5m以上の足場が対象とされた墜落防止措置の対象が、高さ2m以上の足場に拡大することが説明されました。さらに災害事例では、何気ない作業の中に危険が潜んでいることが強調されました。

2日目は品川区にある東邦地下工機株式会社様の敷地内で、実際のボーリングマシンを使い実技の講習がありました。

珍しく雨の中の実技講習となりました。今回はマシン操作の経験が少ない受講者が多く、細かな説明を受けな

がら注意深く作業を行っていたのが印象的でした。一部のベテランが、講師に手順を質問した折には、その周りの受講者が聞き入る場面も多々見られました。また、クレーンによるモンケンの上げ下げでは軽々と作業する講師のイメージで望んだ受講者が、その重さと滑りやすさに格闘する場面もありました。

『安全はすべてに優先する』 このことは当業界でもかわりません。今後もこの事業を継続して開催していきたいと考えています。

(技術委員 加藤 俊昭)

<1 日目 学科講習>



<2 日目 実技講習>



◎ 平成 26 年度東京都・豊島区合同帰宅困難者対策訓練

平成 27 年 2 月 5 日（木曜）午前 9 時 00 分から 12 時 00 分まで、『首都直下地震により、池袋駅周辺に多数の帰宅困難者が発生したとの想定で、駅、商業施設、公共施設の管理者などが連携し、混乱の防止や安全確保に努める。』ことを目的に実施された帰宅困難者対策訓練に、網代会長以下 6 名で参加しました。

当日は天気予報通りに都心でも降雪があるなか、池袋駅東口ロータリー付近でじっと待機しておりました。

訓練は、「一斉帰宅の抑制」「正確で迅速な情報提供」「一時滞在施設の運営」「帰宅支援」などの内容で、訓練参加者（協会の指定された場所には数百人程度の参加者がおりました）は極寒のなか震えながら、ただ指示を待つばかりという正に困難者に相応しい状況となりとても有意義な訓練になったと思われます。

このような訓練は毎年開催されています、あの日を忘れないためにも会員の皆様のご参加をお待ちしております。

（総務副委員長 鈴木 明夫）



◆ 都内探訪（風景写真）

社窓から望む“TOKYO SKYTREE”



〔撮影：総務委員 信田滋章 氏〕

都指定名勝 清澄庭園



〔撮影：関東地質調査業協会 理事 小田部雄二 氏〕

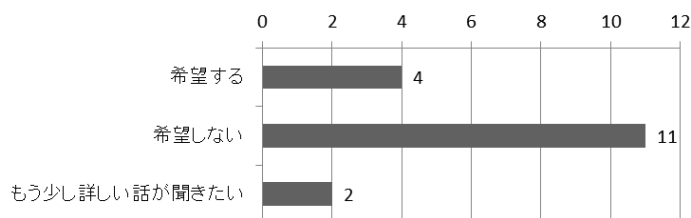
◇ 葛飾区・地盤液状化対策助成金事業に関するアンケート

液状化調査の助成金事業に対し、昨年11月初旬葛飾区より要綱、要領が示され施行されました。

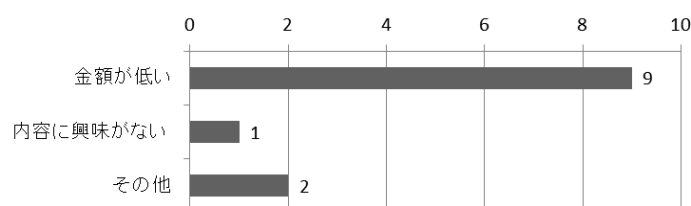
協会では、公表された調査内容の詳細を踏まえて、協会会員の皆様のご意見を伺いたく、アンケート（東地協発26—第32号）を実施いたしました。

< 結果報告 >

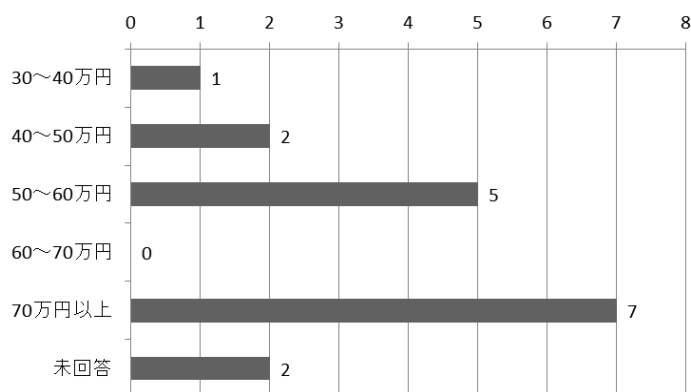
1. 貴社は今回の調査依頼が協会に来た場合、希望しますか。



2. 希望しない方、理由を聞かせてください。



3. 要領に示される調査内容について自社で積算するといくら位になりますか。



4. コスト的に考えて他の方法による提案等あればお聞かせください。

- ・ PDC（ピエゾ・ドライブ・コーン）等 ※ 既存資料を活用し、ボーリング調査よりもより経済的で連続的なデータが取得できるサウンディング
- ・ 三成分コーン貫入試験(CPT)
- ・ ボーリング調査以外(原位置試験のみ)で液状化判定を行う
- ・ ボーリングマシンを使用せず、試料採取用のシート型サンプラーを使用可能な動的貫入試験装置を使用する。
- ・ 動的回転サウンディングでSSをやりながらのサンプリング
- ・ 液状化の判定について3種もやる必要はないと思われる。

5. 今後、隣接する他の区においても同様な制度導入の議論があります。ご意見をお聞かせください。

- ・ 会員企業が、可能な調査費用を事前に隣接区に働きかける必要がある。
- ・ 区単位で基準が変わらないよう統一(東京都)すべき
- ・ 事前にコンタクトをとって、調査内容に見合った適正金額を相手先に十分説明する必要がある。
- ・ 1区画(1家屋)のみでなく、近接する家屋と併せて実施すれば、比較的安価で効率的な地盤評価が可能。
- ・ 対象となる家屋は、3階建ても含めるべき。

お忙しい中、ご協力ありがとうございました。

■ 会員(正会員・賛助会員) 動静

(1) 代表者変更

- ・ 中央開発(株) 東京支社
代表者：[新] 支社長 西原 聡 氏
[旧] 支社長 田中 誠 氏
- ・ (株)キタック 東京支店
代表者：[新] 支店長 中山 修 氏
[旧] 支店長 相田 義徳 氏
- ・ 日本物理探査(株) 関東支店
代表者：[新] 支店長 河野 寛 氏
[旧] 支店長 吉田 武志 氏

住所、代表者、会社名等の変更がございましたら、お手数ですが協会事務局までご連絡をお願い致します。(協会事務局 TEL 03-3252-2963)

▲ 行事日程

日 程	行事名・内容等
6月26日(金)	(東京) 地盤環境技術講習会 ～汚染土壌処理の基礎知識～
7月3日(金)	(全地連) 道路防災点検講習会
7月11日(土)	(全地連) 地質調査技士 資格検定試験
7月22日(水)	(関東) 経営講演会
7月29日(水)	(東京) 足場の組立て等の作業従事者 特別教育講習会
7月31日(金)	(関東共催) 災害復旧事業技術講習会 [予定]
8月22日(土)	(関東・東京)
8月23日(日)	そなエリア東京 防災イベント [予定]
9月1日(火)	(関東・東京)
	東京都・立川市合同総合防災訓練 [予定]
9月17日(木)	(全地連) 技術フォーラム2015・名古屋
9月18日(金)	
10月	(東京) ボーリングマシン安全衛生 特別教育講習会(秋期) [予定]
10月14日(水)	(東京) 東京都2015 講演会 「関東山地の基盤岩の帯状配列」 [予定] ※ 下記地質見学会の内容と関連あり。
11月11日(水)	(東京) 東京都2015 地質見学会 「五日市盆地の新第三系と基盤」 [予定]
12月2日(水)	(関東) 地質調査技士 登録更新講習会

・ 編集後記 ・

さる5月22日に当協会の第31回定時総会が開催されました。

開催回数を見るとなげに歴史を感じるとともに、東地協ニュースも12年目に入り、改めて諸先輩方のご苦勞に感謝しております。

理事でもあり総務委員長の赤澤様が転勤のため辞任されました。長年当協会の発展にご尽力されたことに敬意を表する次第であります。

また、新任の熊坂様におかれましてはこれから宜しく願います。

昨今のニュースでは内外とも騒がしいことが多いようですが、次回の総会も皆様方の元気な姿を見られますように願っております。(A.T)

お店紹介

江戸時代、墨田区錦糸町界隈を舞台とした「置いてけ堀怪談」は有名ですが、その一角に「居酒屋」という名の居酒屋があります。熊本出身の3人兄弟が姉・妹・弟が順に引き継ぎ今年で創業50数年になるという話です。

この店には、「河童連邦共和国・おいてけ堀カッパ村」という別名があります。

この「共和国」は国内48ヶ村、台湾2ヶ村、総人口500名という世帯で、毎年どこかの村でサミットを開催しています。

2代目のお姉さんがカッパ村村長、私は村民で、毎年1000円の村民税を納付し、たまに出没しては熊本焼酎で馬肉や辛子レンコン、クジラ肉を頬張っています。

席数は、小座敷7人、カウンター7人と小ぶりです。

(金道繁紀)

店名 馬刺し「居酒屋」

住所 墨田区江東橋4-21-6-125(花壇街)

電話 03-3631-7735

東地協ニュース 2015.6 第28号

発行・編集 一般社団法人東京都地質調査業協会

〒101-0047 東京都千代田区内神田2-6-8(内神田クレストビル)

TEL 03-3252-2963 FAX 03-3252-2971

<http://www.tokyo-geo.or.jp/> E-Mail info@tokyo-geo.or.jp